

未成立パート
受け入れ可能
分科会

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

東京経済 大学 近藤浩之 ゼミ **B** パート

部門番号

24

部門名

マーケティング論

テーマ

パッケージマーケティング

サブテーマ

フォントと色彩の組み合わせ

趣意文

現在、さまざまなパッケージの商品が発売されている。私たちは、商品パッケージの要素によって与えられる印象が異なる点に疑問を持った。

本研究では、お菓子の商品パッケージを研究対象とする。商品パッケージが消費者へ与える影響と印象について調査する。具体的にはフォントと色彩の2つの要素に焦点を当て、それぞれの組み合わせによって印象がどのように変わるかを見ていく。そして、消費者が商品を購入したくなるような好印象なパッケージを作り、最終的に購買に繋げたい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

駒澤 大学 中済 ゼミ A パート

24

部門番号

部門名 マーケティング論

テーマ SNS 広告による商品・サービスの認知の拡大

サブテーマ プロモーション戦略

趣意文

企業において良い商品やサービスを開発することは重要なことだが、まず認知度を上げることが重要である。ユーザーは広告や SNS、知人からの話などで商品の存在を認知し、その後商品に興味・関心をいだけば、商品を詳しく調べるために検索する。ユーザーは広告や SNS、知人からの話などで商品の存在を認知し、その後商品に興味・関心をいだけば、商品を詳しく調べる。その結果をもとに商品を実際に購入するという行動をおこす。さらに得られた体験などを SNS などで共有する。以上のことからネット社会において SNS によるアプローチが有効的だと考え、利益を最大化させるための SNS 広告を構築させるためにはどうすべきか論ずる。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

法政 大学 藤澤 ゼミ 5

パート

16

部門番号

部門名

環境破壊論

テーマ

ヨーロッパと日本の環境対策の比較

サブテーマ

環境問題の今後

趣意文

近年、全世界において環境問題が深刻な問題となっており、特に地球温暖化が急激な勢いで進んでいる。

そのため、私たちは環境問題について研究し、それに対するヨーロッパと日本の対策を比較している。

ヨーロッパでは、サーキュラ・エコノミーという考え方を柱としており、高い意識で環境問題に取り組んでいる。また、世界に目を向けるとパリ協定が存在し、世界の関心も高まっている。

そして、私たちはヨーロッパの環境問題への考え方や対策と比較して、日本の考え方や対策の優位点や改善点などを議論したいと考える。

また、今後環境問題を解決していくにはどうすべきかも議論したいと思う。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

國學院 大学 根岸毅宏 ゼミ 大泉班 パート

16

部門番号

部門名

環境破壊論

テーマ 環境保護と政策

サブテーマ 循環型社会に向けたプラスチック問題と対策

趣意文

現在、海洋汚染をはじめとしたプラスチック問題が世界的に注目されている。そこで、この論文では、使い捨て経済から循環型経済へ移行させるために、日本のプラスチック処理について検討し、回収率の向上及び国全体のプラスチック問題への意識を高めるための施策を提案する。

結論としては、高度な技術を持つ日本が先陣を切り、プラスチック対策を進めていくべきだと考え、それに必要な財源を確保する為、私達のチームはまだ世界で実施されていないプラスチック税の導入を中心とした提案をする予定である。

本論文で検討する具体的な内容は、第1に、日本が抱える課題であるプラスチックの本質、特徴について分析する。第2に、日本をはじめとしたプラスチック問題の現状・課題を検討していく。第3に、課題解決のために世界で実施されている政策や制度の比較・検討をしていく。以上のことから、新たなプラスチック税の導入などの提案に繋げていく。プラスチックの導入により、リサイクル率の向上や処理方法の改善など今後の更なる取り組みへ向けた財源確保と国全体の意識が向上することが期待される。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

関東学院大学

望月正光

ゼミ

C パート

22

部門番号

部門名

経営学総論

テーマ ZOZO の経営戦略

サブテーマ 日本の今後の EC 市場

趣意文

この討論テーマを設定した背景に、テレビやネットニュースなどで、よく取り上げられている株式会社 ZOZO とその代表取締役である前澤友作氏の話題性に興味を持ったことに加え、アパレル業界の現状と EC 市場の構造に特別な関わりがあると考えた。日本の EC 市場規模は小さくはないものの、世界の先進国に比べ成長率が低いと経済産業省で報告されている。この市場問題に ZOZO などのオンラインサイトはどのような対策、サービス、マネジメント等を行い経営にあたっているのかに関心を持った。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

明治大学 大学 井上崇通 ゼミ D

パート

24

部門番号

部門名

マーケティング論

テーマ キャッシュレス化とマーケティング

サブテーマ キャッシュレス化のメリット

趣意文

我が国では徐々にキャッシュレス化が始まっている。私たちはキャッシュレス化とどのように向き合っていくかが重要である。そのためメリットやデメリット、市場や企業にもたらす恩恵について述べていきたいと思う。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央大学

鬼丸

ゼミ

A パート

12

部門番号

部門名

社会政策論

テーマ

介護離職

サブテーマ

仕事と介護の両立を目指して

趣意文

現在、介護を理由に離職する人は約9万2千人（厚生労働省（2018）『平成29年雇用動向調査』）であり、今後団塊世代の高齢化が深刻化するにつれて、さらに介護離職者が増加することが見込まれる。約2千人を対象とした調査によると、67.6%は就業継続意欲があったにもかかわらず仕事を辞めることとなっている（総務省（2018）『介護施策に関する行政評価・監視』）。離職した理由を聞いた調査によると、理由として最も多いのが「仕事と介護の両立が難しい」であった（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（2013）『仕事と介護の両立に関する労働者アンケート調査』）。

一方、企業にとって、介護離職は人材流出というデメリットをもたらすものである。しかし、企業を対象に、株式会社東京商工リサーチが2016年に行った『「介護離職」に関するアンケート調査』によると、72.5%の企業が仕事と介護の両立支援についての取り組みは十分だと思わないと答えた。このように、労働者と企業の双方から見て、介護離職は問題となっている。

以上を踏まえ、私たちは、望まない介護離職が発生している現状を解決するために、仕事と介護の両立を可能とする柔軟な働き方を含めた両立支援策を提案する。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 宮本悟 ゼミ 宮本悟ゼミ 141 パート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ 社会保障について

サブテーマ 年金と生活保護の関係

趣意文

現在、今後の年金制度に対しての不安が高まっている。納付金の低下による財源不足や年金の受給年齢の引き上げにより、将来生活に十分な年金を受給できるかが不透明である。そのほかにも、女性の年金受給額が男性に比べて少ないといった問題や年金の受給額が少ないことで、生活保護の受給者が増え、さらには生活保護の受給額のほうが国民年金の受給額よりも多いといった問題もある。

このような問題点を年金の歴史や現状を、女性の労働環境などの観点から研究し、解決策を見出していく。

具台的には以下のような問題について考えていきたい。

- ・年金の給付額の低下により、生活保護受給者が増えている
- ・女性の年金受給額が男性に比べて少ない
- ・若者の納付率の低下

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 宮本悟 ゼミ **みやもとぜみ A** パート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ

若者の労働問題

サブテーマ

「ニート」問題とブラック企業問題を中心に

趣意文

私たちは、若者の労働問題に関心があり、特にいわゆる「ニート」問題とブラック企業問題に焦点を絞って研究を進めている。

2004年ににわかに社会的注目を集めることになった「ニート」には、学術的な定義が存在するわけではない。しかしながら、政府はその類似概念である若年無業者（15～34歳の非労働力人口のうち家事も通学もしていない者）の調査を行っており、例えば「労働力調査（2018年版）」によれば2018年は約53万人もの規模であったとされる。

またブラック企業については、「①労働者に対し極端な長時間労働やノルマを課す、②賃金不払残業やパワーハラスメントが横行するなど企業全体のコンプライアンス意識が低い、③このような状況下で労働者に対し過度の選別を行う」、などの一般的特徴を有する（厚生労働省「労働条件に関する総合サイト 確かめよう労働条件」）。その犠牲者の多くは、社会経験の乏しい若者であると考えられる。

以上のような問題意識の下、具体的には下記のような各論点について討論を進めたい。

- ・「ニート」の現状（原因と対応策の検討を含めて）
 - ・ブラック企業における長時間労働
- ・「体育会系経済」の実態

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央 大学 鬼丸朋子 ゼミ C パート

12

部門番号

部門名

社会政策論

テーマ 病気の治療と仕事の両立について

趣意文

「厚生労働省 平成 25 年度 国民生活基礎調査」によると日本の労働人口の約 3 人に 1 人が何らかの疾病を抱えながら働いている。

病気を抱える労働者の 92.5%が就労継続を希望し、現在仕事をしていない人でも 70.9%が就労を希望しているなど、治療と仕事の両立支援に対するニーズは非常に高くなっている。(出典：厚生労働省「平成 25 年度 厚生労働省委託事業 治療と職業生活の両立等の支援対策事業 調査結果」 2 頁) 同調査において、現在仕事と治療を両立できているかという問いに対して、できていると答えた割合は正規雇用で 51.6%、非正規雇用で 44.9%と、いずれも半数程度に留まっている。

また、「近年の診断技術や治療方法の進化により、かつては『不治の病』とされていた疾病においても生存率が向上し、『長く付き合う病気』に変化しつつある」(出典：厚生労働省「平成 31 年 事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」 1 頁) とされており、少子高齢化が進む我が国において、労働力人口を確保するといった面でも、がんや脳・心臓疾患といった病気の治療と仕事の両立の支援を迅速に進めることが必要になると考えられる。このような現状を踏まえ、病気の治療と仕事の両立の実現を目指し多方面から考察する

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 宮本 悟 ゼミ

宮本ゼミ C パート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ

日本における教育保障

サブテーマ

生活保護の在り方も視野に入れて

趣意文

現代の日本における教育保障の問題を、私たち大学生の視点からみていく。その際、生活保護の在り方も視野に入れて検討を進めたい。

現代の日本における教育保障は、教育は家族の責任であるという教育観、教育費の親負担主義という教育費負担の家族主義という考えを基に政策が進められている。だからこそ現状として、高等教育に対する需要拡大に反して、低給付奨学金かつ高授業料という実態がみられる。国としては、教育費の公的負担の根拠を憲法第 26 条・教育基本法第 4 条に、学生支援の義務は教育基本法第 4 条第 3 項に定めているが、その責務を果たしているのだろうか。

また現在、日本における生活保護制度に内包されている諸給付の中に教育扶助が存在しているが、どこまでを扶助の対象にするか、という問題が挙げられる。文部科学省 HP によると、「意欲ある子供たちの進学を支援するため、授業料・入学金の減免と、返還を要しない給付型奨学金の大幅拡充により、大学、短期大学、高等専門学校、専門学校を無償化する方針」(令和元年 6 月 27 日閲覧)が決定された。今後、この政府方針は教育扶助にどのような影響を及ぼすのであろうか。

以上のような諸問題を中心に、議論を深めていきたい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 芳賀 ゼミ A パート

29

部門番号

部門名

その他

テーマ 貧困問題

サブテーマ 子どもの貧困、支援活動

趣意文

日本の貧困、特に子どもの貧困について、その特徴や対策について議論したいと考えている。現代社会には、多くの解決困難な問題があるがその中の1つに『貧困』が存在する。その中でも、近年注目されているのが『子どもの貧困』である。

この課題の対策として、様々な支援がある中で、私たちは『子ども食堂』に目を向けた。それを中心とした子どもの貧困に対する支援や政策を調査していく。

具体的には、このような様々な対策は本当に貧困の子ども達の救いとなっているのか、そもそも今後も続けることが可能なのか、そのような点について調べていく予定である。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 後藤 ゼミ D パート

20

部門番号

部門名

交通論

テーマ 日本の首都圏空港のこれから

サブテーマ 航空機需要の増大する中、発着数をどのように分配するべきか

趣意文

日本の空港は、来年に控える東京オリンピックや政府が進める外国人観光客の誘致など様々な要因で大幅な旅客増をされると考えられている。1970年代にジャンボジェットの就航により航空機を利用する旅行が大衆化してから、日本のみならず世界中で航空機の運航数が劇的に増加していった。その影響で計画された新東京国際空港（現：成田国際空港）であったが、今となっては東京国際（羽田）空港・成田国際空港2つの空港をもってしても世界全体での航空需要の増大に対し発着枠数が足りないのが現状である。それに加え、最初に挙げたことが目前に迫っているのだ。空港周辺での騒音、落下物等の被害をいかに最低限に抑え、2つの空港をどのようにしてより効率よく運用していけるかは、これからの日本にとって解決しなくてはならないとても大きな問題の1つである。その問題に対しどのように解決していけるか、空港の民営化が進んでいる中で利益の配分等も考えていかななくてはならない。それを踏まえて、我々はどのような方策を取っていくのが良いのかを様々な視点で考察していく。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

明治 大学 藤江昌嗣 ゼミ 藤江昌嗣ゼミ C パート

部門番号

1

部門名 日本経済論

テーマ 日本のビジネスモデルの遅れ

サブテーマ 起業率を高めるにはどうすればよいのか

趣意文

近年、世界的にビジネスモデルとして水平分業型が主流となっている一方で、日本ではいまだ垂直統合のシステムが多く見受けられる。その原因として日本企業の経営者に多い組織人タイプの経営者ではなく、フロンティアを開拓していく強いリーダーシップを持つ人材が少ないことが挙げられる。また、古い企業が前線から退き新しい企業が台頭するような企業の新陳代謝もあまり見られていない。

実際に世界の起業率を見ても日本はかなり低いところに位置している。日本の従来からの雇用慣行や教育制度などが足枷となっていると言われていたが、その解消とともにどのような改善策があるか考えたい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

関東学院 大学

望月正光 ゼミ

B パート

4

部門番号

部門名

財政学

テーマ

少子高齢化による地方衰退の改善策

サブテーマ

趣意文

出身の街が衰退しているので打開策がないかを研究しているため、少子高齢化との因果関係を踏まえて、地方の再生方法、少子高齢化の改善並びに、若い世代の人口増加等の打開策を考える。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

神奈川 大学 玉井 義浩 ゼミ B パート

1

部門番号

部門名

日本経済論

テーマ 日本の社会経済を持続可能なものとするために必要なこと

サブテーマ 若者の地方圏からの流出問題と少子高齢化・シェアエコノミー

趣意文

地方圏から都市部への若年人口の流出は、高度成長期ほどの勢いではないものの、未だに進行している。特に近年は少子高齢化を反映し、地方圏の過疎問題、限界集落の問題が深刻となっている。一方、日本経済全体に目を転じると、設備投資需要が横ばいで、正規雇用と非正規雇用の格差も拡大している。

つまり、全体として日本経済の持続可能性に疑問符がついている。我々の研究では、まず上記の問題の実態を把握した上で、日本経済を持続可能なものとするために必要な施策を検討する。たとえば人口減少社会を前提として地方圏のインフラ整備をどのように進めるかを、コンパクトシティも視野に入れて検討する。また、地方に若者を呼び戻すため、どのような形で地方圏に雇用を創出するかも検討する。

地方圏であるか都市圏であるかを問わず、経済の持続可能性の観点から注目されるのはメルカリやライドシェアなどの、シェアエコノミーである。資源節約の観点からも、また、新たな需要や雇用の創出の観点からも、経済の持続可能性を目指す上で、シェアエコノミーは有効なヒントとなる。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央大学 佐藤拓也ゼミ

チーム名 佐藤拓也 A 班 代表者 山本祥一

1

部門番号

部門名

日本経済論

テーマ

AI

サブテーマ

AI 普及による経済への影響

趣意文

近年、あらゆる分野でAIの導入が進み、私たちの生活にも深くかかわるようになってきている。これにより生活が便利になる一方で、AIの導入や機械化により私たちの雇用が奪われてしまうのではないかと懸念もある。過去の産業革命では、それが起こるたびに失業は発生したが、新たな職の誕生によりそれを解決してきた。これに対して、今度の産業革命ではどうなっていくのかを、テーマとして検討したい。また、日本国内の問題だけでなく、AIなどの技術が発展する今後の世界経済のなかにあって、日本はどのような立場でグローバル化に向き合っていくべきかという問題意識も背景にして、テーマを設定した。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

東洋 大学 西澤ゼミ パート

部門番号

23

部門名

経営情報論

テーマ AIによる雇用の変化

サブテーマ 雇用変化に対応した人材育成

趣意文

近年 AI や機械の発展により、人間の仕事が奪われ始めている。簡単な作業や書類作業、物作りにおける組み立てなどだ。それにより会社において人間が必要な仕事が少なくなり解雇者が増えてきたり、企業の採用が減っていくだろう。これから必要とされる人材は、AI にはできない作業を出来たりする、より高度なスキルを持つ人々だ。そのような人々を育成するためには、まず日本の教育環境を変えていかなければならないだろう。例えば、アメリカでは本人の能力に沿って飛び級や留年などといった、その人に適した学習ができるようにするシステムがある。

世界には日本と違った様々な教育がある。これからの日本に適した教育にはどのようなものがあるだろうか。また、社会に出てからの人材育成についても、他国の真似ができる点はあるか考えたい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央 大学 井村進哉 ゼミ 井村進哉 パート

10

部門番号

部門名

金融論

テーマ 増大する企業の内部留保と証券市場

サブテーマ 内部留保の利用方法、証券市場の活性化を中心に

趣意文

日本企業の内部留保額は現在、増加している。私たちのゼミでは、この内部留保に関する日本企業の現状や内部留保の利用について研究している。

内部留保は、設備投資や賃上げ、株主への配当、自社株買いなどに利用することが可能であるが、現状として日本企業は欧州の企業に比べて、配当性向が低く、株主還元の間でも先行されている。また、この内部留保額の増加は、証券市場にも影響を及ぼしていることが考えられる。

そのため、私たちは日本企業の自社株買いや配当性向の現状、東証1部やTOPIXから見た日本企業の株価を分析し、内部留保の利用方法やどのように内部留保を利用して証券市場を活性化させるかを中心に研究を深めていきたいと考えている。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

法政 大学 藤澤 ゼミ 1 パート

11

部門番号

部門名

貿易論

テーマ EUにおける貿易摩擦

サブテーマ EUと大国間の貿易摩擦について

趣意文

イギリスの脱退などヨーロッパ経済は現在大きな転換期を迎えているといえます。そんな中、私たちのグループはヨーロッパ経済の中の貿易摩擦を主に取り上げた。イギリスの脱退で揺れるヨーロッパ経済では各国間にどのような貿易摩擦が生じており、さらにはその原因はなんなのか、打開案はあるのかなどについて調べました。

また、ヨーロッパだけに収まらずヨーロッパとアメリカや日本、中国などの大国間にはどのような貿易摩擦があるのかを調べました。

経済的な貿易における難に留まらず、人が各国間を移動、移住することで起こりうる人間的な貿易摩擦についても深く掘り下げました。

テーマは、ヨーロッパ経済というものを大きく取り上げてはいますが、重きは“貿易摩擦”において広く取り組んで行こうと思っています。ヨーロッパ、アメリカ、日本などなどの世界中の貿易について、それら各国間の貿易摩擦について詳細に発表して行こうと考えています。